座談会　『江ノ電江ノ島駅車止め』観光スポット
おしゃれなピコリーノを見守る！

江ノ電江ノ島駅に設置されている小鳥のついたステンレス製のアーチ型車止め「ピコリーノ」。毎月カラフルな手編みのお洋服を着せかえてもらっているおしゃれな小鳥たちですが、それは誰がどんな気持ちを込めて着せているのか知っていますか？

今回は、江ノ電沿線のユニークな観光スポットとして注目されている江ノ島駅のピコリーノについて、ピコリーノの関係者の皆さんに語っていただきました。

【出席者】（敬称略）

・山根以久子
（株式会社サンポール　代表取締役社長）
・脇坂和彦
（株式会社サンポール　営業企画部）
・岩田和美　（衣装編みボランティアの小池さんのサポーター）
・高宮由香里　（初代衣装編みボランティアの石川さんの長女）
・岡野秀和　（江ノ島電鉄株式会社　ＯＢ）

ピコリーノとの関わり

山根　株式会社サンポールの代表取締役社長をしております。サンポールは主に車止めや旗ポールを作っている会社で、昨年創業50周年を迎えました。ピコリーノは私の主人の母、権藤千代子の発案の製品です。

高宮　江ノ電江ノ島駅のピコリーノに、最初にお洋服を作って着せた石川カツコの長女です。母は25年前から江ノ島駅の売店に勤めていました。当時の売店は、現在の江ノ島駅にある立派なグッズショップの建物とは違い、外に面している部分が大きく開いているような作りでした。なので、冬はとても寒かったそうです。１９９９年の冬に、「建物の中にいる私がこんなに寒いのだから、外にいるピコリーノはもっと寒そう」と思ったことが、ピコリーノのお洋服を作り始めたきっかけだと聞いています。

岩田　石川さんの後を引き継ぎ、ピコリーノの衣装を編んでいる小池さんのサポーターです。高宮さんや、小池さんの娘さんとは同級生なので、小さい頃から衣装を編んでいるお二人のことはよく知っていました。お二人ともとっても優しかったこともよく覚えています。小池さんとのご縁は、私が結婚したのを機に、自分の実家より小池さんのお宅の方が近くなったことで、小池さんが私の子どもたちを孫のようにかわいがってくれたことからです。その小池さんも高齢になり、「ピコリーノのお洋服作りをこれからどなたかが引き継いでくれることが夢だわ」と話しています。石川さんの優しさから生まれ、小池さんにつながったピコリーノのお洋服作りのバトンをこれから先も繋げてきたいと思いながら動いています。

山根以久子さん

岡野　昭和48年に江ノ電に入社し、９年前に退社しました。主に車両を作ったり設備関係の仕事をしていました。ピコリーノが江ノ島駅に設置されたのをはじめて見た時はびっくりしました。更にそれに衣装がついた時には本当に驚きました。

丁度洲鼻通りの入り口が江ノ島駅で、江の島へ行く時はほぼ必ず洲鼻通りを通りますよね。そうすると通り道にこのピコリーノがいます。ほとんどの親子連れはピコリーノを見たり触ったりしていました。その様子をいつも売店から石川さんが ニコニコ見守っていたのを覚えています。これは地域観光の観点でインパクトを与えてるなと見えました。それにしても、駅の車止めにあのピコリーノを選んだことは、当時の江ノ電にしては斬新なことをしたなと思いました。

脇坂和彦さん

脇坂　株式会社サンポールで営業企画をしております。このピコリーノを開発した当時の専務、権藤と一緒に働いていました。ピコリーノに対する優しさのバトンは、権藤から始まり、特に女性から女性へとあたたかな気持ちが輪をつないでいってくれているように感じます。

ピコリーノのはじまり

山根　サンポールが車止めの事業を本格的に始める際に、この小鳥付きの車止め・ピコリーノでした。開発当時、ポーズや配置を何度も考え直し、どうしたら可愛らしくなるのか……なんて話をしていたのを覚えています。

脇坂　ピコリーノを開発する際に、公園の入り口などに設置されている車止めの上に子どもが乗って転倒してしまうということが多くあり、どう対策を取ろうかと考えていました。単に子どもの飛び乗りを防止する目的だったら、柵の上に付けるものは単純な形の方がコストもかからないので、無機質なもので良いのではないかという声が多かったようです。しかし、権藤は「子ども達が主役の公園の入口にふさわしいものを」と、小鳥を乗せることにこだわりました。当時は小さな会社だったのですが、高価な金型を２種類も作り、一羽だけ少し離してはぐれ鳥の形にしたりとこだわりを持って作っていたようです。

岡野秀和さん

小さなお洋服作り

高宮　母は手先が器用だったので、ピコリーノのサイズに合わせて編み目を増やしたり減らしたりと工夫をしながら服を編んでいました。最初は、通りかかる人が「あれ？」と思うくらいで注目は浴びていなかったですね。毎月衣替えをしていく中で、「次はどんな服を着せてあげるの？」と聞いてくれるファンの方が少しずつ増えてきていました。それでやめるにやめられなくなっていったと言っていました（笑）。梅雨の時期など、雨風が強くなる季節は衣装がふやけてしまいますし、夏の強い日射しでも傷んでしまうので、月に２着ずつ作っていたこともありました（笑）。ざっくりですが、母が作った衣装の数を数えてみると、２,０００着は越えていて、よくこんなに作り続けたのだと驚きました。

岩田　石川さんの後を引き継いだ小池さんがいつもピコリーノのお洋服を編んでいる姿を近くで見てきました。「ぱぁぱぁ（小池さん）はいつからお洋服を編んでいるの？」「今月のお洋服がこの色なのは意味があるの？」と聞いていました。「石川さんはもっと工夫していたけど、私はこれしかできないのよ」なんて言いながら、それでも次はこんな色にしてこんな風にしてみようと工夫をしているみたいです。

高宮　服は季節感に気を付けていて、例えば４月は近くの湘南白百合学園の入学式に合わせ、新入生への入学祝いの気持ちを込めて、セーラー服の紺と白のカラーをイメージしたものにしていました。他には季節のお花の色合いにしたり、クリスマスは鈴をつけた特製衣装にしたり……。中でも母が一番力を入れたのは、２００２年の日韓サッカーワールドカップの時でした。その時は父も一緒になって爪楊枝でピコリーノに持たせる国旗まで作っていました。９月は江ノ電の創業記念日があるので、ピコリーノも江ノ電カラーにしたり、江ノ電に新車が入るとその新車の色にしたりもしていましたね。

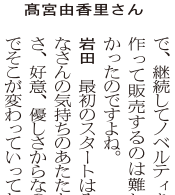
山根　衣装には色々な想いが込められていたのですね。

他の地域のお洋服事情

岡野　長谷とか極楽寺とか江ノ電の他の駅にピコリーノを設置してもおもしろそうですよね。きっとまたその地域に合った衣装を着せてもらえるかもしれないですし。長谷だったら観音様風衣装とか、極楽寺は紫陽花とかお花のイメージの衣装とか……。地域も盛り上がりそうなので、ぜひつなげてほしいですね。

岩田和美さん

山根　川崎では、等々力陸上競技場の近くに設置してあるピコリーノに、川崎フロンターレサポーターの方がユニフォームカラーの衣装を着せてくれています。小池さんもですが、この川崎の方もお一人でお洋服を作っているようです。一人で衣装製作をするのは大変なことですし、グループで衣装製作ができたらいいですよね。


高宮由香里さん

高宮　グループでの製作といえば、近隣の学校の手芸部の学生さんと一緒にお洋服を作ったりできないのでしょうか？

岩田　私は地域のボランティアをしており、近隣の学校に関わることもあるので、地元の小中学校で募集をかけて、ピコリーノのお洋服作りを一緒にできないかと考えていました。講師をしてくれる編み物の先生も見つかり、学生さんや近所の皆さんなど、ピコリーノのお洋服を作ってみたいと思ってくれる方向けに講習会をしてみようと！　という話になったのですが、運悪くコロナウイルスが流行してしまい……。集まって皆で編み物をすることができなくなり、そこから先に発展させることができませんでした。

脇坂　最近、イギリスのオリンピック選手の男性が編み物をしていて話題になりましたよね。昔と比べて男女関係なく編み物が愛されているように感じます。

司会　江ノ電沿線新聞８月号で募集したピコリーノの衣装編みボランティアに応募してくださった方も若い方からご年配の方まで、年代は様々でした。

高宮　様々な事が多様化していく時代なので、逆にピコリーノのお洋服は編み物にこだわらなくてもいいかもしれませんね。ただし雨に対応できれば……（笑）。

岩田　形を変えながらもお洋服作りの優しさの輪をつなげていくことが大事ですね。

ピコリーノは笠地蔵？

岩田　駅で衣装を着せてあげているとき、これ使いますか？　とハサミや両面テープをくれたり、着せるのを手伝ってくれる方もいらっしゃるみたいです。

山根　ピコリーノには、目には見えなくても想いの集積があるんですね。地域のみなさんに本当に愛されていますね。

岡野　洋服を着せてもらったピコリーノを見ていると、笠地蔵が連想されます。着せ替えを手伝ってくれたり声をかけてくれたりする人もいると聞いて、なぜかお地蔵さまみたいだなと思いました。

岩田　今は丸っきり好意だけでボランティアでの衣装づくりしていますが、これから先、テープ代や毛糸代なども自己負担の今のスタイルで衣装づくりを継いでくれる方はいるのかと少し不安です。

脇坂　毛糸代くらい還元できないかとピコリーノの付箋などを作って江ノ島駅の売店限定で売ってみようかという話もでたことはありました。

山根　でもサンポールはあくまで車止め屋さんなので、継続してノベルティを作って販売するのは難しかったのですよね。

岩田　最初のスタートはみなさんの気持ちのあたたかさ、好意、優しさからなのでそこが変わっていってしまうのも違う気がしますよね。難しいところです。

江ノ電創業１２０周年に向けて

脇坂　せっかく江ノ電沿線新聞社さんと縁がつながったので、江ノ電沿線新聞が地域に根差していることを活かして何ができたらいいですよね。

山根　サンポールの社内でもピコリーノのお洋服コンクールをやっています。社員のお母さまも参加されたりと盛り上がっているんですよ。白無垢などおもしろい衣装も多いです。この開催経験を活かしてコンテストの後方支援をすることはできると思います。文化的事業へ積極的に貢献したいですし、ぜひやってみたいですね！

司会　このピコリーノの未来を素敵なものにすることと重なりますね。

本日はみなさんありがとうございました。

SNSの力とピコリーノのこれから

高宮　昔は衣装を変えても全国に伝える手段がなかったので、今のＳＮＳの時代はすぐに情報発信ができてすごいですね。

母はこんな風にピコリーノが盛り上がるとは思っていなかったと思います。寒そうという思いから始まって、自分が他界した後もこんなに長く続くとは……。後を継いでくれたのが小池さんで良かったと思っていることでしょう。小池さんにとても感謝しています。

岩田　ピコリーノを通じて、今まで色々な方が好意と優しさなど、あたたかい気持ちを軸にしてつながってきたという事実が素晴らしいですね。これからもお洋服を着たピコリーノが江ノ島駅を象徴するキャラクターであり続けられるように、できるだけのことをしていきたいです。

山根　サンポールは機能的製品が多い中、ピコリーノは唯一記憶に残る製品で、社員の思い入れも強いです。まさかお洋服を着せてくれる人がいるなんていう発想もなかったですし、みなさんが注目して可愛がってくださるなんて発想もありませんでした。ですので、こうやって優しさの連鎖で、ピコリーノを見た地域の皆さまや江ノ島駅に訪れた人の笑顔に繋がり、一つの観光ポイントとして江ノ島駅のピコリーノが発展したことがとても嬉しく思います。これからも永く愛してもらえたら嬉しいです。

そして、江ノ島駅のピコリーノのような、本来の目的以上の意味を持つような製品をこれからも作っていきたいですね。

脇坂　ピコリーノが開発されてから40年。あたたかな気持ちのバトンがつながっています。なかなかできることじゃないですよね。これから先もこのバトンがつながっていってくれたらいいなと思います。

権藤（故人）はピコリーノが服を着せてもらっているということは知りません。もし地域の方々に愛される今のピコリーノを見たらどう思うのだろう……と思います。

司会　このピコリーノの未来を素敵なものにすることと、地域を楽しくすることと重なりますね。

本日はみなさんありがとうございました。